



ドメインおよびサービス エリアの設定

- [ドメインの追加, 1 ページ](#)
- [サービス エリアの追加, 2 ページ](#)
- [電話番号ブロックの追加, 5 ページ](#)
- [ユーザ権限の追加, 6 ページ](#)
- [ドメインの同期, 8 ページ](#)
- [インフラストラクチャ設定インスタンスの追加, 9 ページ](#)

ドメインの追加

ドメインとは、ユーザのグループです。グループごとにシステム ユーザを 1 名以上任命し、そのユーザにドメイン内のユーザに対するサービスの管理を任せることができます。また、ドメインにはルールまたはポリシーを設定できます。これらのルールとポリシーは、そのドメイン内のユーザのサービスに適用されます。ドメイン内の運用に共通のポリシーを適用することも可能です。

1 人のユーザが複数のドメインを管理できます（そのユーザに適切な承認権限が割り当てられている場合）。ユーザのすべてのサービスは、そのユーザを追加するときに指定したサービスエリアでプロビジョニングされます（ユーザを追加するには、[ユーザプロビジョニング（User Provisioning）] を選択します）。

ドメインを作成した後、新しいドメインにアクセスできるサービスエリアとユーザ権限を追加できます。サービステンプレートを作成し、サービスエリアとユーザ権限に割り当てることもできます。また、1 つのサービステンプレートを、サービス エリアとユーザ権限の複数の組み合わせに関連付けることも可能です。

ドメインを作成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** [プロビジョニング セットアップ (Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [追加 (Add)] をクリックし、[ドメイン (Domains)] ページで新しいドメインを追加します。
- ステップ 3** [コールプロセッサ (Call Processors)]、[メッセージプロセッサ (Message Processors)]、[同期ルール (Synchronization Rules)]、[LDAP設定 (LDAP Settings)] などの必要なフィールドに入力し、[保存 (Save)] をクリックします。[名前 (Name)] フィールドにドメイン名を入力する必要があります。使用できる文字は、スペース、英数字 (A ~ Z、a ~ z、0 ~ 9)、および特殊文字 _ - / : ; = ? @ ^ ' { } [] | ~ です。
-

既存のドメインを編集するには、左ペインでドメインのリストを展開し、編集するドメインをクリックします。また、[すべてのドメイン (All Domains)] をクリックし、テーブルからドメインを選択して [編集 (Edit)] をクリックする方法もあります。

サービス エリアの追加

サービス エリアを設定するときは、次の操作を実行できます。

- コール プロセッサと関連するオブジェクト (Cisco Unified Communications Manager ではルートパーティション、デバイス プールなど) を指定することにより、サービス エリアを対応するコール プロセッサ オブジェクトにマッピングします。同様に、サービス エリアをユニファイドメッセージ プロセッサとユニファイドプレゼンス プロセッサにマッピングします。
- サービス エリアのユーザ タイプを指定します (サービス エリアから製品をオーダーできるのは、サービス エリア内のユーザだけです)。
ドメインルールの DefaultUserType に基づくデフォルトのユーザ権限は [従業員 (Employee)] です。
- サービス エリア ユーザの電話番号ブロックを作成します。
- 選択したコールプロセッサにプレゼンスプロセッサが関連付けられている場合に、ユニファイドプレゼンス プロセッサの設定にプレゼンス プロセッサを表示します。



- (注) サービス エリアをドメインに割り当てた後で、別のドメインに移動することはできません。また、コールプロセッサ、ユニファイドメッセージプロセッサ、またはユニファイドプレゼンス プロセッサをサービス エリアに割り当てた後で、それらを変更することもできません。
-

サービス エリアを追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [プロビジョニング セットアップ (Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [すべてのドメイン (All Domains)] ペインで特定のドメインを展開し、[サービスエリア (Service Areas)] をクリックします。
- ステップ 3** サービスエリアを作成するドメインを選択します。
- ステップ 4** [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 5** [サービスエリアの設定 (Service Area Configuration)] ページで、必要なフィールドに入力して [保存 (Save)] をクリックします。次の表に必須フィールドを示します。

既存のサービスエリアを編集するには、左ペインでサービスエリアのリストを展開し、編集するサービスエリアをクリックします。また、テーブルからサービスエリアを選択し、[編集 (Edit)] をクリックする方法もあります。

表 1: サービスエリア設定のフィールド

フィールド	説明
[共通デバイス設定 (Common Device Config)]	サービスエリアの共通のデバイス設定。[共通デバイス設定 (Common Device Config)] では、次の設定を制御できます。 <ul style="list-style-type: none"> • [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)] • [ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)] • [ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)] • [ユーザ ロケール (User Locale)] • [MLPP 通知 (MLPP Indication)] • [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)] • [MLPP ドメイン (MLPP Domain)]
参照先	デバイスに割り当てられるロケーション。サービスエリアを追加する場合、開始ウィザードでドメインに関連付けられたいずれかのコールプロセッサを追加しているなら、このフィールドは任意です。
パーティション	サービスエリアのルートパーティション。これは、Cisco Unified Communications Manager のパーティションと同じです。
[デバイスプール (Device Pool)]	サービスエリアのデバイスプール。

フィールド	説明
[音声ゲートウェイ参照 (Voice Gateway References)]	サービス エリアの音声ゲートウェイ参照。
[電子メールプロセッサ (Email Processors)]	<p>Cisco Unity Connection に対してのみ使用可能で、Internet Message Access Protocol (IMAP) クライアントのサポート用に外部 Exchange Server と統合されます。</p> <p>Cisco Unity Connection で IMAP 用の Exchange Server を設定するには、Cisco Unity Connection システムで [システム設定 (System Settings)] > [外部サービス (External Services)] > [新規追加 (Add New)] を選択し、必要なフィールドに入力します。</p>
[TTSが有効でない加入者 テンプレート (Subscriber Template without TTS Enabled)]	ユニファイド メッセージ プロセッサのユーザに対してユニファイド メッセージングを無効にするために使用される加入者テンプレート。
[TTS が有効な加入者 CoS (Subscriber CoS with TTS Enabled)]	<p>ユニファイド メッセージ プロセッサのユーザに対してユニファイド メッセージングを有効にするために使用される、サービス クラス テンプレート。これは、加入者テンプレートとともに使用されます。</p> <p>CoS の TTS を有効にするには、Cisco Unity Connection で次の設定を行う必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [IMAP クライアントを使用したボイスメールへのアクセスを許可する (Allow Users to Access Voice Mail Using an IMAP Client)] フィールド ([ライセンス機能 (Licensed Features)] の下) を選択します。 • [高度な機能へのアクセスを許可する (Allow Access to Advanced Features)] フィールドおよび [テキスト/スピーチ (TTS) を使用したExchange電子メールへのアクセスを許可する (Allow Access to Exchange Email by Using Text to Speech (TTS))] フィールド ([ライセンス機能 (Licensed Features)] の下) を選択します。
[TTS が有効でない加入者 CoS (Subscriber CoS without TTS Enabled)]	ユニファイド メッセージ プロセッサの加入者に対してユニファイド メッセージングを有効にするために使用される、サービス クラス テンプレート。これは、加入者テンプレートとともに使用されます。
[電話番号ブロック (Directory Number Blocks)]	サービス エリアに割り当てられている電話番号ブロック。 電話番号ブロックの追加, (5 ページ) を参照してください。

- [共通デバイス設定 (Common Device Config)]、[ロケーション (Location)]および[パーティション (Partition)] フィールドは、Cisco Unified Communications Manager にのみ適用されます。
- [TTS が有効な加入者 CoS (Subscriber CoS with TTS Enabled)]、および [TTS が有効でない加入者 CoS (Subscriber CoS without TTS Enabled)] フィールドは、Unity および Unity Connection にのみ適用されます。

電話番号ブロックの追加

電話番号ブロック内の番号は、それらが作成される Cisco Unified Communications Manager に対して相対的です。Prime Collaboration Provisioning では、電話番号は Cisco Unified Communications Manager と同様に処理されます。

新しい電話番号ブロックを追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [プロビジョニング セットアップ (Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** 左のセレクト ペインでドメインおよびサービス エリアを展開し、目的のサービス エリアを選択します。
- ステップ 3** [電話番号ブロック (Directory Number Block(s))] フィールドで、[行の追加 (Add Row)] をクリックします。
- ステップ 4** 目的のフィールドに入力して、[保存 (Save)] をクリックします。



(注) [最小長 (Minimum Length)] フィールドは、プレフィックスを除く電話番号の最小桁数です。番号にゼロを埋めるためにシステムによって使用されます。たとえば、Prefix = 408、First Number = 0、Last Number = 100、Minimum Length = 4 の場合、電話番号ブロックの範囲は 4080000 ~ 4080100 になります。

- 編集するには、電話番号ブロックを選択して [編集 (Edit)] をクリックします。必要な変更を行って、[保存 (Save)] をクリックします。
- 変更をキャンセルするには、[キャンセル (Cancel)] をクリックします。
- 電話番号ブロックを削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。

ユーザ権限の追加

Prime Collaboration Provisioning はユーザ志向のプロビジョニング製品であり、人間のユーザと、userID で定義されるオープンスペースの場所が必要です。これにより、共有エリアのユーザとデバイスを簡単に特定することができます。ユーザロールは複数の目的に使用できます。ユーザロールは、ポリシーを適用し、請負業者、役員、販売員といったさまざまなユーザタイプ向けに、注文可能な製品とサービスを制御します。これらは、オーダー時にオーダー管理者に表示される選択肢を制御するフィルタリングプロセスでも使用されます。また、ユーザロールの設定は、自動サービスプロビジョニング処理の際、特定のユーザタイプ向けに、オーダーされるサービスと適用されるサービステンプレートを決定します。管理者はさまざまなサービスレベルを定義するために、多数のユーザロールを作成できます。

デフォルトのユーザ権限は次のとおりです。

- [従業員 (Employee)] : 新しいユーザに割り当てられるデフォルトの権限です。



(注) デフォルトロールはドメインルールで設定されます。

[従業員 (Employee)] ユーザ権限は、組織内での従業員の標準的な設定に合わせておく必要があります。[従業員 (Employee)] ユーザ権限をニーズに合わせて設定しておかないと、サービスオーダープロセスの間に必要なオプションが表示されなくなります。

- [エグゼクティブ (Executive)] : より多くのサービス設定を持つ追加権限です。
- [疑似 (Pseudo)] : Cisco Unified CM に関連するユーザのないエンドポイントのプロビジョニングに使用されます。[疑似 (Pseudo)] ユーザはコールマネージャに登録されておらず、名前の変更も削除も行えません。

最初にユーザを追加してから ([ユーザの追加](#) を参照)、ユーザに疑似ユーザ権限を割り当てます。

疑似ユーザは、電話と電話番号インベントリの管理を実行できます。

疑似ユーザには1つ以上のエンドポイントを関連付けることができます。たとえば、会議室は一つ以上のエンドポイントを持つ疑似ユーザとして、建物は数百のエンドポイントが関連付けられる疑似ユーザとすることができます。

これらのユーザ権限は、Cisco Prime Collaboration Provisioning の各ドメインに存在します。ユーザ権限の各セットは、各ドメインで事前定義済みのユーザ権限を追加、削除、変更することでカスタマイズできます。

ユーザ権限を追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [プロビジョニング セットアップ (Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [すべてのドメイン (All Domains)] ペインで特定のドメインを展開し、[ユーザ権限 (User Roles)] をクリックします。
- ステップ 3** 特定のドメイン ページの [ユーザ権限 (User Roles)] で、[追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4** [ユーザ権限の設定 (User Role Configuration)] ページで、ユーザ権限名、タイプ、ドメイン、回線、サービス、サービス バンドルの必須詳細情報を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
(注) ユーザ ロール名で有効な値は、英数字 (a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9)、ピリオド (.)、ハイフン (-)、アットマーク (@)、アンダースコア (_) ですが、引用符 (")、山カッコ (<>)、バックスラッシュ (\)、アンパサンド (&)、およびパーセンテージ (%) を含めることはできません。
- ステップ 5** 続行するには [保存 (Save)] をクリックします。

- ユーザ権限を設定するには、目的のユーザ権限を選択し、特定のドメインのユーザ権限で[編集 (Edit)] をクリックします。
- ユーザ権限を削除するには、目的のユーザ権限を選択し、特定のドメインのユーザ権限で[削除 (Delete)] をクリックして [OK] をクリックします。
- ユーザ権限クイック ビューには、ユーザ権限に対して選定されたドメイン、エンドポイントの数、サービス、サービス バンドルが表示されます。

ユーザ権限とサービスの関連付け

特定のエンドポイントに権限が関連付けられているユーザだけが、そのサービスをオーダーできます。エンドポイントとサービス、個々のサービスのオーダーを作成するか、またはバンドルされたサービスをオーダーできます。表 1 を参照してください。

手順

- ステップ 1** [プロビジョニング セットアップ (Provisioning Setup)] を選択します。
- ステップ 2** [すべてのドメイン (All Domains)] ペインで特定のドメインを展開し、[ユーザ権限 (User Roles)] をクリックします。
- ステップ 3** 選択したドメイン ペインの [ユーザ権限 (User Roles)] で [追加 (Add)] をクリックします。
- ステップ 4** ユーザ権限の名前を指定し、目的のエンドポイント、回線、サービス、およびサービス バンドルと関連付けます。[エンドポイント (Endpoints)]、[サービス (Services)]、および [サービスバンドル (Service Bundles)] は必要な数だけ選択できます。
(注) ユーザ権限の設定を変更するには、[ユーザ権限 (User Roles)] を選択します。特定のドメインの [ユーザ権限 (User Roles)] で、目的のユーザ権限を選択して [編集 (Edit)] をクリックします。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

ドメインの同期

ドメインの同期では、同期からデータを集約します。ドメイン同期の実行中にデバイスがアクセスされることはありません。

ドメインの同期中、Prime Collaboration Provisioning は以下を実行します。

- ユーザおよびユーザのサービスとプロビジョニングインベントリを同期し、新しいユーザを作成して、レコードを更新します。
- ユーザ アカウントを同期し、Prime Collaboration Provisioning を更新してユーザがログインできるようにします（ログインはセルフケアルールが有効の場合にのみ作成されます。『Cisco Prime Collaboration Provisioning - Standard および Advanced、11.x ガイド』の「[ビジネス ルールの説明](#)」を参照）。
- サービスをサービス エリアに関連付けます。
- Unity Connection または Unity Express の割り当てられたボイスメール電話番号を、Cisco Unified Communications Manager のボイスメール電話番号と同期させます。

ドメインを完全に同期するには、ドメイン内の各デバイスのインフラストラクチャとユーザの同期を実行してから、ドメインの同期を実行する必要があります。

次の手順を実行してドメインを同期させます。

はじめる前に

同期ルールが設定されていないと、ドメインの同期を開始できません。

手順

ステップ 1 [プロビジョニング セットアップ (Provisioning Setup)] を選択します。

ステップ 2 [ドメイン (Domains)] テーブルから、同期するドメインの[クイックビュー (Quick View)] をポイントし、[ドメイン同期の開始 (Start Domain Synchronization)] をクリックします。
ドメインの同期が正常に開始されたことを示すポップアップが表示されます。クイック ビューの[前回の同期 (Last Synchronization)] フィールドに、同期のステータスが開始時刻および完了時刻とともに表示されます。

インフラストラクチャ設定インスタンスの追加

インフラストラクチャ設定インスタンスを追加するには、次の手順を実行します。

手順

- ステップ 1** [インフラストラクチャのセットアップ (Infrastructure Setup)] > [インフラストラクチャ設定 (Infrastructure Configuration)] を選択します。使用できるすべてのデバイスが左ペインにリストされます。
- ステップ 2** デバイスのインフラストラクチャ製品を表示するには、それぞれのデバイスを展開します。
- ステップ 3** 目的のインフラストラクチャ製品をクリックし、その製品を相互起動するか、ネイティブに起動します。
- 相互起動すると、そのデバイスの [検索およびリスト (Find and List)] ページが表示されます。[新規追加 (Add New)] をクリックし、必要な情報を入力して [保存 (Save)] をクリックします。
 - インフラストラクチャ製品の一部 (10.0 よりも前のバージョン) はネイティブで開始されます。製品インスタンスを追加し、Provisioning 内で設定するには次の手順を実行します。
 - 1 [追加 (Add)] をクリックして、[インフラストラクチャ設定 - 製品インスタンスの設定 (Infrastructure Configuration - configure Product Instance)] ページで必要な情報を入力します。フィールドの横のアスタリスクは、必須フィールドを示します。
 - 2 [適用 (Apply)] または [下書きとして保存 (Save as Draft)] をクリックします。

[適用 (Apply)] では、設定がただちにデバイスへ送信されます。[下書きとして保存 (Save as Draft)] では、設定がローカルにのみ保存されます。後でサービスをデバイスに送信するには、[適用 (Apply)] をクリックするか、インフラストラクチャ設定スケジューリング機能を使用します。

また、[下書きとして保存 (Save as Draft)] を選択すると、オブジェクトのプロビジョニング状態が [追加未実行 (Uncommitted Add)] になります。動作ステータスは非アクティブです。つまり、オブジェクトはまだデバイスに送信されていません。
- (注) [適用 (Apply)] をクリックすると、デバイスが再起動し、進行中のコールが予期せず終了します。

インフラストラクチャ設定インスタンスをネイティブ起動用にコピーするには、[コピー (Copy)] をクリックします。[インフラストラクチャ設定 - 製品インスタンスの設定 (Infrastructure Configuration - configure Product Instance)] ページで、[下書きの設定 (Draft Configuration)] タブをクリックして必要な情報を入力します。フィールドの横のアスタリスクは、必須フィールドを示します。[適用された設定 (Applied Configuration)] タブには、設定済みのインスタンスが表示されます。[適用 (Apply)] または [下書きとして保存 (Save as Draft)] をクリックします。インフラストラクチャ設定インスタンスが「copy of」というプレフィックス付きで保存されます。

ネイティブ起動用のインフラストラクチャ設定インスタンスを削除するには、次のいずれかを実行します。

- ただちに設定済みのインスタンスをデバイスから削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。
- オーダーを後でプッシュする場合は、[削除のスケジュール (Schedule Delete)] をクリックします。
- 設定済みのインスタンスがローカルに保存されて残っている場合は、[下書きの削除 (Delete Draft)] をクリックします。

オブジェクトのステータスは[削除未実行 (Uncommitted Delete)] になります。動作ステータスはアクティブです。

[下書きの削除 (Delete Draft)] を実行しても、他のインフラストラクチャ製品やユーザ サービスでそのインスタンスを引き続き使用できます。たとえば、あるルートパーティションに削除対象のマークが付いている場合も、そのルートパーティションは回線または電話製品やコーリングサーチ スペースで選択可能です。

インフラストラクチャ設定インスタンスをネイティブ起動用に編集するには、変更するインスタンスをクリックします。[下書きの設定 (Draft Configuration)] タブで、必要な変更を行います。フィールドの横のアスタリスクは、必須フィールドを示します。必要な情報を入力します。

[適用 (Apply)] または [下書きとして保存 (Save as Draft)] をクリックし、変更を保存します。



(注) Cisco Unified Communications Manager 内で数値が指定されている設定値を消去するには、値として 0 を入力する必要があります。値を消去しただけでは、Cisco Unified Communications Manager 内の設定は解除されません。
